



# FD・教育評価部門の活動について

広島工業大学 生命学部 食品生命科学科  
FD・教育評価部門 部門長  
教授 長崎 浩爾

## はじめに

広島工業大学では、以前からFaculty development (FD)に取り組んでいるが、2016年に始動した「HIT教育2016」を実効性のあるものにするため、その取り組みをさらに強化している。本稿ではその現状を紹介する。

## FDとは

現在、日本の多くの大学では、教育の質的補償を実現するために教育内容や教育方法の改革に取り組んでおり、FDはこれを実現するための一つの手段である。

FDの必要性については、1998年に大学審議会が「21世紀の大学像と今後の改革方策について」(答申)において指摘し、1999年に各大学におけるFDの実施が努力義務化された。2006年には改正された教育基本法において、教員が自己の使命を自覚して絶えず研究と修養に励んで職責を遂行しなければならないこと、養成と研修の充実が図られなければならないことが規定された。また、2007年に大学院、2008年に大学設置基準が見直され、大学院教育課程及び学士教育課程においてFDの実施が義務化された(参考:大学・短大でFDに携わる人のためのFDマップと利用ガイドライン、国立教育政策研究所FD研究会編、2009年)。

このFDは管理者による組織の教育環境及び教育制度の開発のためのマクロ・レベル、カリキュラム・プログラムの開発のためのミドル・レベル、個々の教員による授業・教授法の開発のためのミクロ・レベルに分類される。

## 本学でのFDの取り組み

本学では2014年から改めて体系的なFDに取り組み、全教職員への啓発とともに実施の定着を図っている。

マクロ・レベルは必要に応じて実施し、ミドル・レベルでは、先進的なFDに取り組んでいる大学の関係者の講演やワークショップ等による全学FDを年2回行っている。近年では「アセスメントポリシーの概要と必要性」(関西国際大学 学長 濱名 篤氏)、「高等教育政策の動向」(早稲田大学 文学芸術院 教授 沖 清豪氏)等を実施した。また、HIT教育機構の事業報告や学内教育改革の紹介等の全学FDも年1回行っている。なお、これら全学FDは教員の参加が義務付けられているものではあるが、その参加率は100%である。



全学FDでの講演(関西国際大学 学長 濱名 篤氏)

ミクロ・レベルでは、アクティブ・ラーニング(特に、問題解決型学習:PBL)等、直接的に授業改善に結びつく内容のFD研究会を年2回実施している。

また「授業公開ウィーク」と称する期間を設定し、その期間中に「授業参観」、「授業研究会」、「授業コンサルティング」といった授業改善のための

取り組みを積極的に行っている。さらに学生の反応を把握するとともに授業改善のために全教員、全開講科目を対象とした授業アンケートも実施している。



全学FDでの聴講



全学FDでの質疑応答

## 授業公開ウィークでの取り組み

FDの一環として、教員が関心のある授業を参観し、教員相互の授業方法及び内容改善に役立てることを目的として、前後期にそれぞれ2週間の「授業公開ウィーク」を設定し、「授業参観」、「授業研究会」、「授業コンサルティング」の3つに取り組んでいる。

「授業参観」は、参観希望者が希望科目開講時間に教室の後方で授業を参観するものである。開始当初は報告



授業参観



公開授業

書の作成を義務付けていたが、積極的な参加を促すと同時に希望者が少しでも負担なく参観できるように、必ずしも報告書を作成する必要はないものとした。

「授業研究会」は、授業参観に加えて授業後に授業担当者と参観者が情報交換会を開催し、授業の内容や方法等について意見を交わすものである。情報交換会の報告書からは「分野の異なる学科の教員からの意見や評価された項目に関する意見が大変参考になった」、「学科の基幹科目と当該科目の関係、教科書の選択方法や、利用方法について改めて検討するためのよい機会となった」等、前向きな意見が数多く見受けられる。2017年度からは前後期でそれぞれ2学科



授業研究会での情報交換会

が1組となり、6研究会、年間で12研究会を開催しており、実質的には1年間に1回は各学科の授業研究会を行うことになっている。

「授業コンサルティング」は、授業改善のための手法の一つである。コンサルタント役のHIT教育機構教職員が当該授業の教室に入り、全履修学生から「授業の良い点」、「授業で改善してほしい点」を聞き取る。それを集約してHIT教育機構職員が結果シートを作成し、授業担当者に返却するとともに今後の授業の展開について検討する。授業担当者は授業を改善することで学生の意見に対して応えるものである。実際にコンサルティングを受けた教員からは「授業アンケートと比較してかなり詳細な意見を集めることができ、授業を改善しやすい」という感想が多くある。

## 授業アンケート

2004年度から実施していた授業アンケートは、基本的に各教員が担当授業のうち1科目を選択し、マークシートを利用してしたが、2017年度からは、全開講科目を対象としてWebにて実

施するようになった。このアンケート結果は学生がシラバスから閲覧可能であり、学生にとっては授業を選択する際の情報として利用することができる。教員にとっては、全担当授業について学生の授業への意欲や理解度等の授業改善に有効な情報が得られるようになった。

## 今後の活動について

本学では2016年から専門力と人間力を磨き、「成長する力」を育てる「HIT教育2016」が始まった。夢を叶えようと努力する学生を支援するためにも授業の質を向上させることは極めて重要であり、そのために大学教員として自身の専門の研究のみならず教育の教授方法や教材の研究を遂行していく必要がある。

近年、HIT教育機構ではミドル・レベル、ミクロ・レベルでの授業改善にとって直接的なFDを積極的に実施してきており、全学FDやFD研究会は計画通りに実施できている。しかしながら、「授業公開ウィーク」での「授業参観」や「授業研究会」、「授業コンサルティング」については、より積極的な活用が望まれている。公開授業が自分の担当している授業と時間的に重複していることから参観できないという状況が生じていることもあるが、FDとして「授業研究会」等を実施する意図を理解してもらい、極力多くの教員が参加するようになる取り組みが必要である。